

SAS 経済価値ベースの資本規制対応支援 専用ソリューションの提供開始



アウラメスク氏（左）とマルモンティ氏

アナリティクス・ソフトウェア&ソリューションのリーディングカンパニーであるSAS Instituteでは、保険監督者国際機構（IAIS）が国際的に活動する保険グループ（IAIG S）を対象に策定を進める国際資本基準（ICSS2・0）について、保険会社への支援を推進している。ICSS2・0は2019年11月に、20年1月から5年間のモニタリングの合意がなされており、モニタリングの結果を踏まえた調整や市中協議等を行った後、24年にICSS2・0の内容を確定する予定だ。これを受けてSASでは、IFRS17（国際会計基準第17号）やソルベンシーIIに関する保険領域での知見を生かし、9月末にICSS2・0専用ソリューションの提供を開始した。日本の保険業界の実務に即したソリューションの提供に力を入れている。SASのリスクソリューション展開をリードするアンセルモ・マルモンティ氏と、保険の会計基準や資本規制への対応ソリューションおよび保険数理プラットフォームをリードするオアナ・アウラメスク氏にICSS2・0対応の重要性や、同社の強みについて聞いた。

——ICSS2・0検討の背景について。
アウラメスク 今、多くの企業が国や地域を巻き込んだ「基準」に注目している。ICSS2・0では資本という観点でスタートしているが、重要なのは保険業界がグローバルで共通言語を持ち、共通のKPIで評価できるようにすること。

——ICSS2・0の規制要件を満たすことで得られるメリットとは。
アウラメスク ICSS2・0は①規制当局②保険会社③消費者・株主の三つの柱から構成されているが、あらゆる利害関係者にとってメリットをもたらすものだと考えている。監督当局にとつては、ICSS2・0による評価を通じて、管轄区域外の保険会社についても共通のKPIで比較できる

ようになる。保険会社にとっては、ICSS2・0を通じて、業界内における自社の立ち位置を正確に把握できるようになり、消費者により良い商品を提供できるようになるはずだ。消費者においても、ICSS2・0によって保険各社の比較が容易になるだろう。投資家との関わりにおいても、統一された情報があることで、より正確な投資

切に対応する必要があら。保険会社では、CFOを中心に、今起きている変化や規制の新しい領域に対して、さまざまなシナリオを描いていると思うが、そのシナリオを正確に分析することが重要だ。今は不確実性が高まっていることもあり、その難易度は上がっている。タイムリーかつ正確な分析のためにも、保険会社では業務プロセスを

活用した各種シミュレーションを通じて、将来のポートフォリオ計画やリスクを考慮した経営判断に資する精度の高い予測が可能になる。私たちは当社のソリューションをお客さまにとっての戦略的プラットフォームと考えており、足元の規制対応だけでなく、将来の幅広い業務にも役立つものを求めている。ICSS2・0におけるキーワードはコンプライアンスであり、まずはそこを徹底することが必要だが、それに加えて、高い計算能力を身に付け、タイムリーにレポートを提出できる仕組みを構築することが成長の鍵になる。

「ICSS2・0対応は将来への投資」

アウラメスク氏は①規制当局②保険会社③消費者・株主の三つの柱から構成されているが、あらゆる利害関係者にとってメリットをもたらすものだと考えている。監督当局にとつては、ICSS2・0による評価を通じて、管轄区域外の保険会社についても共通のKPIで比較できる

——これからの保険会社に求められることは。
マルモンティ ICSS2・0の背景には、監督当局からの圧力と、ビジネスサイドからの機運の高まりの両面があると感じている。IFRS17やソルベンシーIIなど、保険会社は規制の動向に適

できる限りデジタル化することも重要だ。それによって分析力を向上させ、より競争力のある商品の提供につなげていくことが求められている。——ICSS2・0に取り組むに当たり、日本の保険会社が意識すべきことは。
マルモンティ 当社はこの分野でさまざまな経験を有しているが、まず言えることは、ICSS2・0は絶えず変化してい

素に対応するためには、柔軟性を備えることが必要だ。ICSS2・0に限らず、保険業界では今後規制の変化が続くと思えるが、その際、柔軟に対応できるシステムやフレームワークの存在が大きな意味を持つようになる。タイムラインを考慮しながら、複数のシミュレーションを同時に実行できる体制を整えるべきだろう。今後はデータ構造の見直しが必要になる

——ICSS2・0領域における御社の強みは。
マルモンティ 当社は世界で数百社に及ぶ金融機関とパートナーシップ

——今後の日本での展開に向けた抱負を。
アウラメスク 監督当局の動向に関しては、今後も変化が起きると考えている。まだ見えていないところが多く、不安もあると思うが、不確実

より良いガバナンスに通じる道でもある。ICSS2・0は単なるコストではなく、未来への投資であるという意識を持って取り組んでほしい。当社としても、そういった意思のある保険会社を全力でサポートしていく覚悟を持って臨んでいる。当社のソリューションは、コンプライアンスの強化だけでなく、今後発生し得るリスクのモニタリングを通じて、リスクベアスの経営判断を行うことにも役立つものだ。規制に対して、安易にショー

要なのは、柔軟性、拡張性の高いプラットフォームを選択することだ。規制の変化という意味では、ICSS2・0もまた、通過点に過ぎない。長期的な視点で、変化を前向きに捉えてほしい。ICSS2・0に特化したソリューションに関しては、国内規制に準拠した日本語版を12月に提供開始する予定だ。当社はグローバル企業だが、日本では、日本人スタッフがサポートを提供している。これまでにも日本では多くの導入実績があるが、さらに一歩進んだパートナーシップを目指してICSS2・0ソリューションの普及に注力していきたい。